

# RHYTHM

## 電波時計 取扱説明書

### (掛置兼用デジタル時計)

お買い上げいただきありがとうございます。

お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

お読みになった後もお手元に保管して、必要に応じてご覧ください。

製造 発売元 **リズム時計工業株式会社**〒330-9551 埼玉県さいたま市大宮区北袋町1丁目299番地12  
http://www.rhythm.co.jp

## アフターサービスについて

この時計のアフターサービスは、お買い上げ販売店がいたします。次の記載事項と保証書をよくお読みの上、ご利用ください。お買い上げ販売店でのアフターサービスが受けられない場合は、当社お客様相談室にご相談ください。保証期間中の場合は、販売店の保証書が必要です。

### ●修理部品の保有について

電子回路や歯車などの修理用性能部品は製造打ち切り後、7年間で基準に保有しています。ただし、ケースなどの外装部品の修理には、類似代替品の使用や現品交換で対応させていただくことがあります。

### ●修理可能期間について

無料保証期間が過ぎても、この時計の性能部品保有期間中は、原則として有料での修理が可能です。ただし、修理内容や送料などにより修理代金が高額になる場合がありますので、販売店とよくご相談ください。

## お問い合わせ先

お問い合わせに際しては、製品番号(型番)「**8RZ○○○**」をお伝えください。

(フリーダイヤル)  
**お客様相談室 0120-557-005**

受付時間 9:00～17:00(土日、祝日および当社休日を除く)

(Y1609)

## 安全にお使いいただくためにはじめにお読みください

ここに示した注意事項は、あなたや他の人への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

必ず守ってください。

### 図記号の説明

⊘は、禁止(してはいけないこと)を示しています。

①は、指示する行為を必ず守ることを示しています。

### ⚠ 警告

死亡または重傷などを負う可能性が想定される内容

❗ **必ず守る**  
誤飲を防止するため、小さな部品や電池は、幼児の手の届く所に置かない  
万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師の治療を受けてください。

❗ **禁止**  
電池からの液漏れや発熱、破裂を防止するために、次のことを守る

- 電池に傷をつけない。
- 電池を分解しない。
- 電池をショートさせない。
- 電池を充電しない。
- 電池を加熱しない。
- 電池を火の中に入れない。

❗ **禁止**  
電池の液漏れが起きたときは、素手でさわらない

●目や皮膚についたら、すぐに水道水でよく洗い流して医師の治療を受けてください。衣服に付着した場合は、すぐに水道水で洗い流してください。  
アルカリ乾電池の場合、失明や炎症などの障害が発生する危険性が高くなります。

●電池を外して漏れた液を布や紙でよくふき取ってください。修理が必要なときは、お買い上げの販売店または当社お客様相談室にご相談ください。

### ⚠ 注意

傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容

❗ **必ず守る**  
電池の⊕⊖を正しく入れる  
液漏れや発熱の原因となり、けがや故障の原因になります。

❗ **禁止**  
強い振動や衝撃を与えない  
故障や破損の原因になります。

❗ **禁止**  
浴室やサウナ、温室など、高温・高湿になる所では使わない  
さびや故障の原因になります。

❗ **禁止**  
ぬれた手でさわらない  
さびや故障の原因になります。

❗ **分解禁止**  
分解や改造をしない  
けがや故障の原因になります。

❗ **禁止**  
下記のような場所では使わない  
性能の低下、部材の変形、変色、劣化、故障の原因になります。

- 直射日光が当たる所。
- 暖房機器の風が当たる所。
- 温度が+50℃以上の所。
- 温度が-10℃以下の所。
- 火気のそば。
- ほこりが多く発生する所。
- 強い磁気が発生させる機器のそば。
- 車中や船舶、工事現場など、振動の激しい所。
- プール、温泉場などガスの発生する所。
- 調理場など多くの油を使用する所。
- ゴムや軟質のポリ塩化ビニルに長い間、直接ふれさせておくと、色移りや付着、変質をすることがあります。

## 電池のご注意 (電池の正しい使いかた)

### 電池のご使用上のポイント 正しく使って事故をなくしましょう

- プラス(+)、マイナス(-)を間違えない。
- 時計が動いていても定期的に交換する。
- 長期間使用しないときは電池を取り外す。
- 時計が止まったらすぐに電池を取り外す。
- 電池に表示されている使用推奨期間内に使う。
- 幼児の手が届かない所に置く。
- 古い電池と新しい電池を混ぜない。
- 種類の異なる電池を混ぜない。

### ■電池の種類について

- アルカリ乾電池とマンガン乾電池は形状的に互換性があり、一般にアルカリ乾電池のほうが長持ちします。
- 一般に充電式の電池は電圧が低く、時計には不向きですので使用しないでください。

### ■電池の寿命について

- 付属の電池は、お試用として工場を出荷するときに入れてありますので、製品仕様より短い期間で電池切れになることがあります。
- 温度などの使用条件により、電池寿命が製品仕様より短くなる場合があります。
- 買い置きした電池を使用した場合、保管状態や乾電池に示されている「使用推奨期限」により、電池寿命が短くなる場合があります。

### 🔁 電池の交換時期お知らせ機能

**37.7°C** 電池の交換が必要になると電池マークが表示されます。電池マークが表示されたときは、早めに新しい電池に交換してください。  
\*時刻の「時の桁」が切り替わったときに電池の電圧を確認します。

### ⚠ 注意

**電池の交換** 早めに交換して液漏れを防ぎましょう

❗ **必ず守る**  
電池からの液漏れにより、修理や家具などの修繕に費用が発生することがあります。電池からの液漏れや発熱、破裂を防ぐために、次のことをお守りください。

- 古い電池と新しい電池、種類の異なる電池を混ぜて使用しない。
- 電池は製品仕様欄の「電池寿命」を参考にして、定期的に交換してください。
- 電池の⊕⊖を逆に入れない。

この取扱説明書を許可なく複製、変更することを禁じます。本製品を使用することによって生じたいかなる支出、損益、その他の損失に対してなら責任を負いかねますのでご了承ください。

## 電波時計について

### 電波時計とは

クォーツ時計に標準電波を受信する機能を搭載し、標準電波を受信することにより、自動的に正確な時刻に修正する時計です。

### 標準電波とは

標準電波(JJY)は、日本標準時(JST)をお知らせするために、情報通信研究機構が運用している電波です。

※標準電波の時刻情報は、およそ10万年に1秒の誤差という「セシウム原子時計」によるものです。

標準電波送信所は、福島県の「福島局：おおたかどや山標準電波送信所」と佐賀県と福岡県の県境にある「九州局：はがね山標準電波送信所」の2カ所にあります。

標準電波の詳細については、情報通信研究機構のホームページをご覧ください。  
(http://jjy.nict.go.jp)

### 標準電波の送信停止について

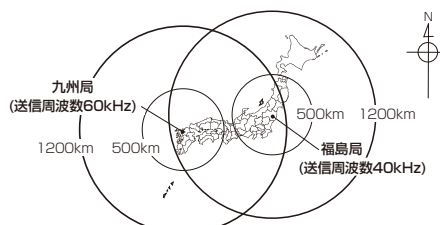
送信所の定期点検や落雷などの影響により、標準電波の送信が停止することがあります。標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

### 海外でのご使用について

この時計は、日本以外の標準電波は受信できません。海外でご使用になるときは、電波受信機能をOFFにして手動で日時を合わせてください。ONのまま使用すると、まれに日本の標準電波を受信し、日本の標準時を表示したり、ノイズにより誤った日時を表示することがあります。

### 電波の受信範囲について

送信所から約1200km離れた場所でも受信可能です。ただし、受信範囲であっても電波障害(太陽活動、季節、天候、置き場所、時間帯(昼/夜)あるいは地形や建物の影響など)により、受信できないことがあります。

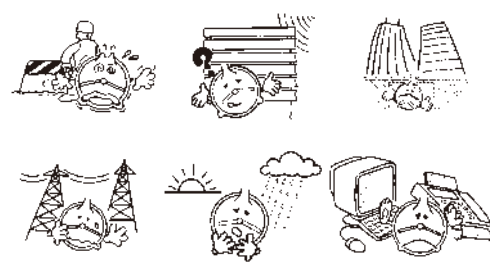


この時計は福島局と九州局に対応しており、標準電波を自動選択して受信します。

## 電波を受信しにくい環境

次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

- 工事現場、空港の近くや交通量の多い所など電波障害の起きる所
- 金属製の雨戸やブラインドの近く
- ビルの中、ビルの谷間、地下
- 高圧線、テレビ塔、電車の架線近く
- 朝夕の時間帯、雨天のとき
- 家電製品やOA機器の近く
- スチール机等の金属製家具の上や近く



## 電波受信機能のON/OFFを切り替える

ON：定期的に受信を行い、受信に成功すると日時を自動修正します。

OFF：電波を受信しません。遅れ進みが発生したときは、手動で日時を修正してください。

強制受信ボタンを8秒間押し続けると、ONとOFFが切り替わります。



- ON/OFFが切り替わるときに、時刻表示部にON/OFFが約2秒間減します。
- ONにしたときは、電波の受信を開始します。

※電池を抜いて回路内に電荷がなくなると受信機能がONになります。

※操作のタイミングによっては、ON/OFFが切り替わらないことがあります。このようなときには操作を繰り返してください。

## 強制受信とリセット操作

### 強制受信

設置場所を移動したときなど、電波の受信を試みたいときに押します。受信に失敗しても継続して日時を表示します。

◎手動で時刻合わせをしているときは機能しません。

◎受信中に押すと受信を停止します。

●電波受信機能がOFFのときは、強制受信を押しても受信を開始しません。

### リセット

電池を入れた直後や静電気などにより誤作動したときに押します。リセット直後は、2016年1月1日午前12:00に初期化されます。

◎電波受信機能はONになり、受信を開始します。

## 温度、湿度表示について

センサーが本体内部にあるため、表示に反映するまでには時間がかかります。

直射日光が当たる場所や冷暖房器具、加湿器、除湿器などの近くでは、室内の温度と湿度を反映しにくくなります。

※湿度は相対湿度です。単位は%RHですが、天気予報など一般には%が使われています。

### ■測定範囲を超えたときの表示とその意味

温度「HI」50℃より高温 「Lo」-9.9℃より低温

湿度「HI」95%を超えている 「Lo」20%未満 「--」測定不能(温度が0~50℃の範囲外)

## 用途について

- この製品は医療や業務用として開発したものではありません。
- 本製品は、温度、湿度の証明など商取引に使用することはできません。

## 電池・時計の廃棄

- お住まいの自治体の指定に従ってください。
- 電池と時計を分別して廃棄してください。

## お手入れについて

- 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤や石けん水を、やわらかい布に少量つけてふき取り、その後、からびぎしてください。
- ケースなどの汚れ落としに、ベンジン、シンナー、アルコール、スプレー式クリーナー類は、使用しないでください。
- 静電気により、時計や掛けた壁面が汚れることがありますので、定期的に汚れを落としてください。

## おもな製品仕様

使用温度範囲	-10~50℃ *結露しないこと	温度湿度表示	
液晶表示可読温度	0~40℃	測定間隔	1分間隔
時間精度	標準電波受信成功直後の表示精度 ±1秒	温度表示範囲	-9.9~50℃
	標準電波を受信しない場合 平均月差±30秒	温度精度	±1℃
	*温度が5~35℃のときのクォーツ精度	温度表示範囲	20~95% 温度が0~50℃の範囲のとき
使用電池	単3形マンガン乾電池 JIS規格 R6P 1.5V 2個 または、 単3形アルカリ乾電池 JIS規格 LR6 1.5V 2個	湿度精度	±3% 温度25℃、湿度60%RHのとき
電池寿命	マンガン:約1年 アルカリ:約2.5年	電波受信機能	標準電波受信による時刻修正
カレンダー	2000~2099年対応	受信局	福島局/九州局 自動選択
六曜表示	2000~2032年対応	受信ON/OFF	あり
祝日表示	2000~2099年対応	自動受信回数	8回/日
	日本国のみ(2016年時点での祝日法に準拠)	受信開始時刻	1時~4時、13時~16時 各時間帯の16分40秒から受信開始
電池の交換時期お知らせ機能	電池マークの点灯でお知らせ	防塵防滴機能	なし

※液晶はその特性上、0℃以下になると表示反応が遅くなったり、表示が薄くなる場合があります。40℃以上になると表示が濃くなったり、ムラに見えることがあります。温度が0~40℃になれば正常に戻ります。  
※液晶表示板は5年を過ぎると、コントラストが低下して数字が読みにくくなる場合があります。  
※製品仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

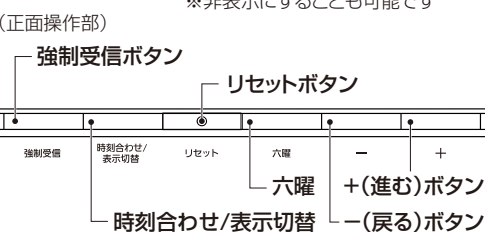
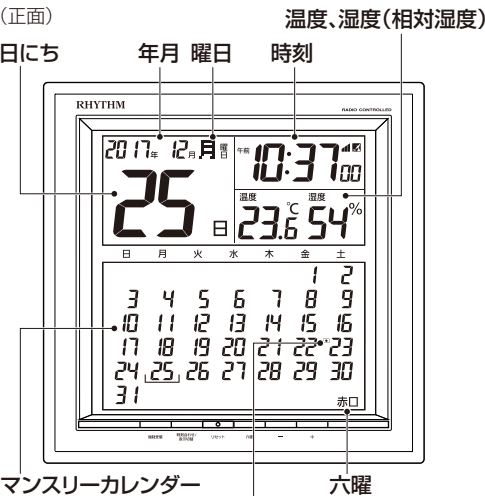
付属品

お試用電池 2個、木ねじ 1個、取付金具 1個、くぎ 4個、取扱説明書 本書、保証書 1枚



## ご使用方法 (電池を入れて標準電波を受信して日時を合わせる)

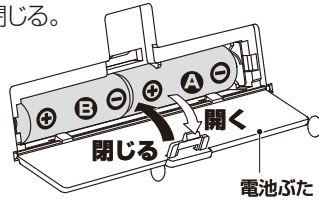
◎図は操作説明用ですので実際の商品と異なることがあります。



- リセットは爪楊枝など細いもので押してください。
- 液晶は見る方向により薄くなったり、ムラになったりします。正面上方から見たときにははっきり見えます。

### 電池の入れかた

- ①電池ふたを開ける。
- ②電池ホルダーの⊕⊖表示に合わせて、単3形乾電池を2個入れる。
- ③電池は⊖の位置に入れてから横に移動させる。
- ④電池ふたを閉じる。



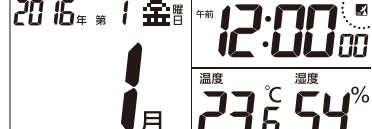
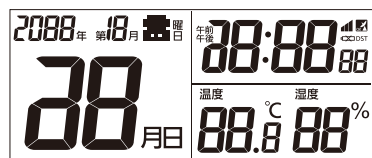
**注意** 電池の⊕⊖を逆に入れると、電池の液漏れ・発熱・破裂の原因となります。

- 強制受信** すぐに受信を開始させたいときに押す
- 時刻合わせ/表示切替** 【押してすぐ離す】月週番号表示と月日表示の切り替え  
【2秒以上の長押し】手動で日時を合わせる  
12/24h切替、祝日表示切替設定
- リセット** 電池を入れた直後に押す
- 六曜** 六曜の確認
- 「-」(戻る) 「+」(進む) 手動で日時を合わせるときに使用

## 電波を受信して日時を合わせる

### 【受信の流れと表示】

(リセットを押した直後)



※電源投入直後およびリセットを押した直後は、2016年1月1日、午前12:00に設定されます。

### 受信マークの変化

電波の状態により変化します。(電波サーチ機能)

受信できない (受信しやすい)



受信マークが点滅しなくなり、受信成功表示が点滅すると、受信成功です。受信マークが点滅していたら受信成功です。【受信の流れと表示】参照

◎受信中はボタンやスイッチにふれないでください。

標準電波を利用しないで、手動で日時を合わせる際には**手動での時刻合わせ**をお読みください。

電波の受信しやすい窓際などでご使用ください。

- ①電池ホルダーの⊕⊖表示に合わせて電池を入れる
- ②リセットを楊枝などで押すと受信マークが点滅し受信を開始します
- ③20分経過したら受信結果を確認する

受信に要する時間は、最長で約20分です。受信マークが点滅していたら受信成功です。【受信の流れと表示】参照

◎受信中はボタンやスイッチにふれないでください。

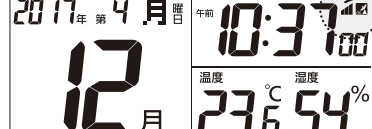
### アドバイス

テレビ、蛍光灯などの家電製品やパソコンなどのOA機器からのノイズにより、受信できなかったり、誤った日時を表示することがあります。場所を変えてリセットを押して再度受信を試みてください。

### チェック!

1~2分経過しても受信マークが①または②の受信状態が続く場合は受信できません。場所を変えてリセットを押して再度受信を開始させてください。

受信成功すると受信マークが点滅しなくなり、受信成功表示が点滅します。受信成功後、24~25時間点灯



(受信に成功したときの表示例)



(受信に失敗したときの表示例)

※受信に成功しても、ノイズにより誤った日時を表示することがあります。  
※受信に失敗したときに表示されている日時は正しくありません。

## 電波を受信できない場合

### ●朝までそのままにしておく

一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、手動で時刻合わせをして一晩そのままにしておくとう受信できる可能性が高くなります。

### ●場所を変える/受信をやり直す

電波の受信しやすい窓ぎわで取扱説明書の日本地図を参考に、時計の正面または裏面が電波の送信所に、なるべく向くようにして、リセットを押して再度受信を行ってください。

### ●時刻を合わせて使用する

ベランダなどの屋外で電波の受信に成功させるか、手動で日時を合わせて使用してください。  
※電波が受信できないときの時間精度は、クオーツ精度になります。

## 手動での時刻合わせ …… 電波が受信できないときや任意の日時に合わせる時

操作例に従って、西暦年、月、日、時刻(時、分、秒)の順に設定してください。

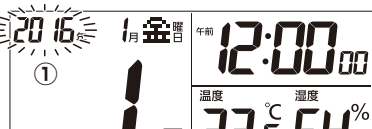
### 年月日、時刻(時、分、秒)でのボタン操作

点滅している数値を+または-で合わせてから**時刻合わせ/表示切替**を押すと数値を確定して次に進みます。

ボタン操作	押してすぐ離す	押し続ける
+ (進む)	1つ進む	早送り
- (戻る)	1つ戻る	早戻し

- 約30秒間ボタン操作を中断すると、表示されている内容で設定を終わります。
- 標準電波を受信できないときの時間精度は、クオーツ精度になります。
- 電波受信機能がONのときは、受信に成功すると日時を自動修正します。

### ◆操作例. 2017年12月25日 午前10:37に合わせる



①時刻合わせ/表示切替を西暦年が点滅するまで約2秒間押し続ける。  
※西暦年が点滅すると、月日表示に切り替わります。

- ②年を+または-を押して合わせて、時刻合わせ/表示切替を押す。
- ③月を+または-を押して合わせて、時刻合わせ/表示切替を押す。
- ④日を+または-を押して合わせて、時刻合わせ/表示切替を押す。
- ⑤時を+または-を押して合わせて、時刻合わせ/表示切替を押す。
- ⑥分を+または-を押して合わせて、時刻合わせ/表示切替を押す。
- ⑦秒を+または-を押して合わせて、時刻合わせ/表示切替を押す。

時刻の設定は以上ですが、**時間表示形式の切り替え** **祝日表示の切り替え** を続けて設定してください。

12時間表示のときの午前/午後表示に注意。  
24時間表示のときは午前/午後の表示はありません。

## 時間表示形式の切り替え



◎12H(12時間表示)/24H(24時間表示)を+または-を押して合わせて、時刻合わせ/表示切替を押す。

## 祝日表示の切り替え

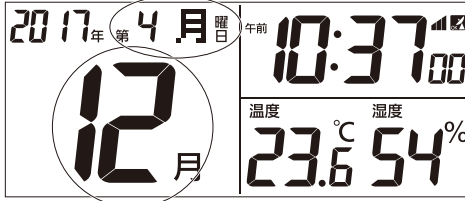


◎祝日表示のON/OFFを+または-を押して合わせて、時刻合わせ/表示切替を押す。  
※祝日は日本国のみで表示で、2016年時点での祝日法に準拠しています

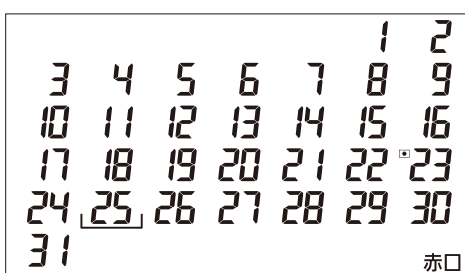
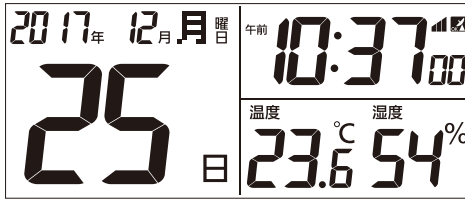
※時間表示形式の切り替え 祝日表示の切り替え を単独で設定する場合は①から順番で表示を切り替えて、設定してください。

## カレンダーの使いかた

(通常表示:月週番号メイン)



(通常表示:日にちメイン)



### ■月週番号表示 (第〇〇曜日)

表示月の週番号を表示します。

- 時刻合わせ/表示切替ボタンを押してすぐ離すと、月週番号表示(第〇〇曜日)と日にちメイン表示を切り替えることができます。
- ※電波受信中は切り替え操作はできません。

### ■マンスリー表示 (ひと月分のカレンダー)

通常表示のときに、+または-を押すと他の月を参照することができます。

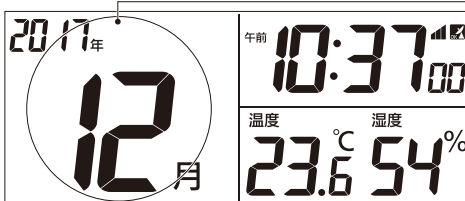
- 六曜ボタンを2秒以上押し続けると、通常表示に戻ります。
- 約30秒間ボタン操作を中断すると、通常表示に戻ります。
- カレンダーは2000~2099年まで対応。
- ※電波受信中にカレンダーを操作すると受信を中止します。

◎他の月に切り替えても六曜と●(日本の祝日)は表示されます。

六曜表示の切り替え 祝日表示の切り替え 参照

## 六曜表示の切り替え

表示月や特定の年月の六曜を確認することができます



六曜該当日 ※下枠の点滅表示

六曜を押すと、年月のみの表示に切り替わります。

六曜を押すごとに表示月の六曜表示が切り替わり、該当日の下枠が点滅します。

※六曜表示は、大安、赤口、先勝、友引、先負、仏滅の順に切り替わります。

他の年月の六曜を確認したい場合は、+または-を押して年月を変更してください。

ボタン操作	押してすぐ離す	押し続ける
+(進む)	1つ進む	早送り
-(戻る)	1つ戻る	早戻し

●約30秒間ボタン操作を中断すると、通常表示に戻ります。

●六曜ボタンを2秒以上押し続けると、通常表示に戻ります。

●六曜は2000~2032年まで対応。

### ◎六曜について

旧暦の月と日から導きだされ、大安、赤口、先勝、友引、先負、仏滅の6種類があります。  
※六曜は慣習として使われていますが、公的な機関が定めたものではありません。

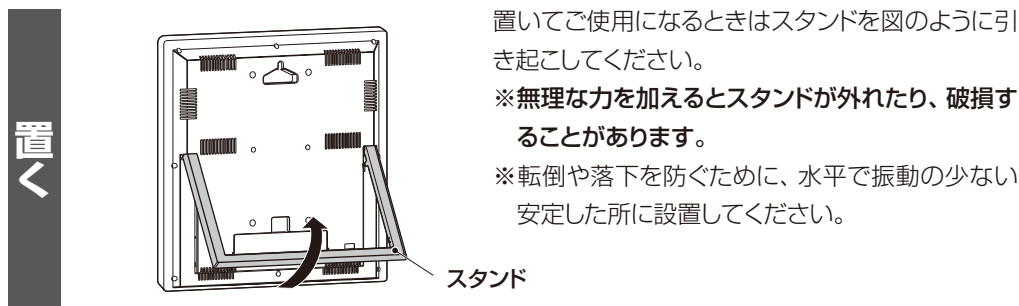
## 静電気による誤作動について

静電気の影響により、正常に機能しなくなることがあります。このようなときは**強制受信**を押してください。

## 時計の設置

**注意** 一般的な家庭やオフィスなどの室内用です。粉じんが多い所、水がかかる所、結露する所では使用しないでください。故障や誤作動の原因になります。

- 屋外、温室、サウナ、プール、温泉、浴室、冷蔵庫、車の中では使用しないでください。
- 直射日光が当たる場所や冷暖房器具、加湿器、除湿器などの近くを避けてください。
- 空気がよく循環する場所に設置してください。
- ※設置する高さによっても温度、湿度が変わります。一般的に室内の低い位置では温度は低く、湿度は高くなります。
- ※湿度は「空気のかたまり」として移動するため、同じ室内でも風通しの良い所と悪い所では違いがでます。



置く

**注意** 掛けかたが不適切な場合、時計が落下する危険があります。

- 掛けるときは、上下、左右に軽く動かして、壁掛け穴に掛け具(木ねじ)がしっかり掛かっていることを確認してください。
- 垂直に掛けてください。傾くと掛け具から外れるおそれがあります。
- ドアを開閉するときの振動が伝わらないところに設置してください。
- 市販の掛け具を使用するときは、壁掛け穴にしっかり掛かるものを選んでください。
- スタンドは閉じてください。

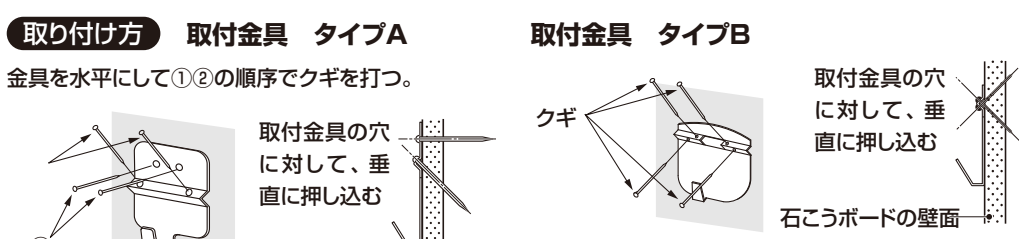
## 木の柱または木質の厚い壁面の場合

- 付属の木ねじが使用できる場所は、木の柱または木質の厚い壁面です。
- 木ねじは下図のとおり、壁面にしっかりねじ込んで固定してください。



## 石こうボードの壁面の場合

- 付属の取付金具を使用できる場所は、石こうボードの壁面です。
- 取付金具は下図の通り、付属のクギ4本でしっかり固定してください。



- 壁の材質、取り付け方法を確認の上でご使用ください。
- 付属する取付金具のタイプに応じた取り付けをしてください。
- 取付金具は水平に取り付けてください。傾けて取り付けると時計が傾きます。
- クギは取付金具の穴に対して、垂直に押し込んでください。
- 取付金具には、3.5kg以上のものは掛けないでください。

## その他の壁面の場合

- 石こうボード、コンクリートなどの壁面に掛ける場合は、壁の材質・構造と時計の重量に合った、市販の掛け具をご使用ください。その際、粘着式や吸盤式は時計が落下する危険がありますので、使用しないでください。